

レジャー

動物日記

県生態系保護協会

名倉 麻梨香

羽化したら食事せず

ウスタビガ



葉が少なくなり、すっかり殺風景になった雑木林に、あざやかな黄緑色に輝く繭まゆがぶら下がっているのを見つけた。しかし、中はからっぽ。繭の元の「住人」は、きつと近くにいるのだろうと胸が高鳴った。

「住人」を探しながら歩いてみると、黄色い影が後ろから、少し先の落ち葉の中に降りて行った。そっと向かうと、やはりそれは久しぶりに出会えたウスタビガだった。

ウスタビガは、大きく美しいヤマユガの仲間で、握りこぶしほどの大きさだ。秋が

深まった頃に羽化し、冬を迎える前に卵を産んで一生を終える。きれいな羽を持つ成虫の寿命はたったの数日なのだ。はじめから口を持たず、食事をしない。ひたすら次の命を育むためだ。

茶色がかった柔らかな黄金色の羽に、繊細な波打ち模様。全部で四つある目のような丸い模様は、なんと透明だ。美しく印象的な羽模様から目が離せなくなる。

正面から顔を見ると、長い歯間ブラシのような触角と大きい真っ黒な目。胴体は丸々として、フワフワの毛に覆われている。短いモフモフの足を動かしている様子は、まるで動くぬいぐるみのようで、とんでもなく可愛い。

しばらく見とれてみると、ふわりと舞い上がった。まもなく命が尽きる愛くるしいウスタビガの舞を、姿が見えなくなるまで見送った。